

製品名: KAP1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21494**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:89kD;Observed MW:110kD

抗原情報

遺伝子名	KAP1
別名	Transcription intermediary factor 1-beta;TIF1-beta;E3 SUMO-protein ligase TRIM28;KRAB-associated protein 1;KAP-1;KRAB-interacting protein 1;KRIP-1;Nuclear corepressor KAP-1;RING finger protein 96;Tripartite motif-containing protein 28;
遺伝子 ID	10155.0
SwissProt ID	Q13263
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

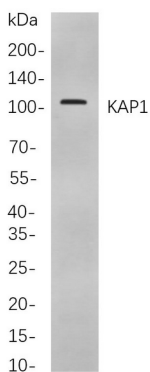
背景

細胞局在: 核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、多くの転写因子に見られるクルップル関連ボックス抑制ドメインとの相互作用を介して転写制御を媒介する。このタンパク質は核に局在し、特定のクロマチン領域と会合すると考えられている。このタンパク質は三者モチーフファミリーのメンバーである。この三者モチーフには、3つの亜鉛結合ドメイン、RING、Bボックスタイプ1、Bボックスタイプ2、そしてコイルドコイル領域が含まれる。[RefSeq 提供、2008年7月]

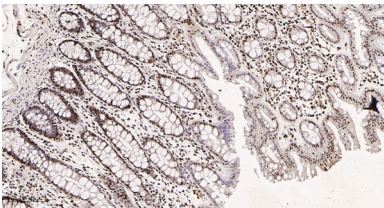
研究分野

-

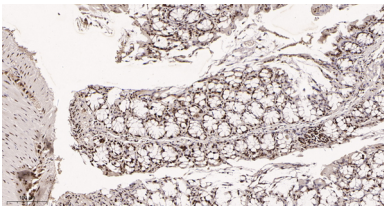
画像データ



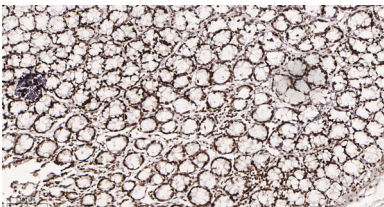
KAP1 ウサギ mAb を用いた HEK293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト結腸組織の免疫組織化学分析。1、KAP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋マウス結腸組織の免疫組織化学分析。1、KAP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット結腸組織の免疫組織化学分析。1、KAP1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。